

公開実用平成 3-55674

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-55674

⑬ Int. Cl.⁵

H 01 R 13/42

識別記号

B

庁内整理番号

8623-5E

⑭ 公開 平成3年(1991)5月29日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 頁)

⑮ 考案の名称 電気接続子

⑯ 実 願 平1-115843

⑰ 出 願 平1(1989)10月3日

⑱ 考 案 者	草 柳 孝 幸	神奈川県中郡大磯町大磯2224番地1	日本端子株式会社内
⑲ 考 案 者	鈴 木 瑛	神奈川県中郡大磯町大磯2224番地1	日本端子株式会社内
⑳ 出 願 人	日本端子株式会社	神奈川県中郡大磯町大磯2224番地1	
㉑ 代 理 人	弁理士 成島 光雄		

明 細 書

1. 考案の名称

電気接続子

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 一方に電線接続部が他方に雄形の電気接続子との嵌合部が各々形成されると共に、ハウジング内に收容されて当該ハウジング内の可撓性の抜止め係止片に係合する抜止め係合部を備えた電気接続子において、

前記抜止め係合部は、雄形の電気接続子との嵌合部の一部を構成する弾性挟持片から突設させた面板を、内側へコ字状またはL字状に湾曲させて前記抜止め係止片との接合面を湾曲状で厚肉に形成したことを特徴とする電気接続子。

(2) 一方に電線接続部が他方に雄形の電気接続子との嵌合部が各々形成されると共に、ハウジング内に收容されて当該ハウジング内の可撓性の抜止め係止片に係合する抜止め係合部を備えた電気接続子において、

前記抜止め係合部は、底板の一部をくり抜いて

形成された窓孔と、当該窓孔に隣接する一方縁部で底板の面板を内側へコ字状またはL字状に湾曲させた湾曲片とからなり、抜止め係止片との接合面を湾曲状で厚肉に形成したことを特徴とする電気接統子。

3. 考案の詳細な説明

〔考案の目的〕

a) 産業上の利用分野

本考案は、ハウジング内に收容されて当該ハウジング内に設けられた可撓性の抜止め係止片に係合する抜止め係合部を備えた電気接統子の改良に関するものである。

b) 従来技術

この種の電気接統子としては、例えば第7図および第8図のような構造のものがある。

第7図の電気接統子20は、底板21の長手方向の後端側に電線の被覆を圧着する被覆挟持片22と電線の芯線を圧着する芯線挟持片23が、前端側には弾性挟持片24が各々設けられると共に、前記底板21の一部を絞り加工で弾性挟持片24

側へ突設させて台状の突出し部 25 が形成されている。尚、弾性挾持片 24 の芯線挾持片 23 に隣接する端面が抜止め係合部 26 を形成している。

前記の電気接続子 20 は、例えば第 9 図のように雌形のハウジング 27 内に收容され、これと嵌合する雄形のハウジング 28 内に收容された雄形の電気接続子 29 を前記弾性挾持片 24 と突出し部 25 とで挾持して電気接続が行われる。この雌形のハウジング 27 は合成樹脂材で形成され、ハウジング 27 内には收容した前記電気接続子 20 の突出し部 25 に隣接する底板 21 の端面が係合して当該電気接続子 20 が矢印 a 方向へ抜け出すのを防止する係止突起 27 a が設けられている。また、ハウジング 27 の内壁から可撓性の抜止め係止片 27 b が突設され、該抜止め係止片 27 b は收容した電気接続子 20 の抜止め係合部 26 に係合して当該電気接続子 20 が矢印 b 方向へ抜け出すのを防止している。

第 8 図の電気接続子 30 は、底板 31 の長手方向の後端側に電線の被覆を圧着する被覆挾持片 3



2と電線の芯線を圧着する芯線挟持片33が、前
端側には弾性挟持片34が各々設けられると共に、
前記底板31の先端を弾性挟持片34側へ湾曲状
に折り返して舌状部35が形成されている。更に、
前記底板31の一部は窓孔状にくり抜かれて抜止
め係合部36を形成している。

前記の電気接続子30は、例えば第10図のよ
うに雌形のハウジング37内に收容され、これと
嵌合する雄形ハウジング38内に收容された雄形
の電気接続子39を前記弾性挟持片34と舌状部
35とで挟持して電気接続が行われる。この雌形
のハウジング37は合成樹脂材で形成され、ハウ
ジング37内には可撓性の抜止め係止片37bが
突設されている。この抜止め係止片37bは、収
容した前記電気接続子30の底板31に穿設され
た抜止め係合部36に嵌合係止され、当該電気接
続子30が矢印a方向および矢印b方向へ各々抜
け出すのを防止している。

c) 考案が解決しようとする課題

前記した従来の電気接続子20, 30では、い

ずれも当該電気接続子 20, 30 を一体形成している金属薄板の板厚の端面部分によって抜止め係合部 26, 36 が形成され、前記可撓性の抜止め係止片 27b, 37b に係合する端面はエッジが鋭角状の角部を備えた薄肉のものである。

従って、上記の係合状態で電気接続子 20, 30 に接続した電線に過度の引張り力が作用した際には、抜止め係合部 26, 36 によって抜止め係止片 27b, 37b が変形したり削り取られる等の損傷を生じさせ、ハウジング 27, 37 に対する保持力が低下して電気接続子 20, 30 が離脱する欠点があった。

そこで本考案では、この課題を解決するために前記抜止め係合部の構造を改善した電気接続子の提供を目的とするものである。

〔考案の構成〕

a) 課題を解決するための手段

本考案の請求項 (1) の要旨は、前記電気接続子の抜止め係合部が、雄形の電気接続子との嵌合部の一部を構成する弾性挟持片から突設させた面

板を内側へコ字状またはL字状に湾曲させて、前記抜止め係止片との接合面を湾曲状で厚肉に形成した電気接続子である。

本考案の請求項(2)の要旨は、前記電気接続子の抜止め係合部が、底板の一部をくり抜いて形成された窓孔と、当該窓孔に隣接する一方縁部で底板の面板を内側へコ字状またはL字状に湾曲させた湾曲片とからなり、抜止め係止片との接合面を湾曲状で厚肉に形成した電気接続子である。

b) 実施例

以下に本考案を第1図乃至第6図で図示の実施例に基づいて説明する。

先ず第1図と第3図は、第7図で示した電気接続子20を改良した実施例である。第1図の電気接続子1は、弾性挟持片2の端部から突設させた面板を内側へコ字状に湾曲させて抜止め係合部3が一体形成され、抜止め係合部3の接合面が湾曲状で厚肉に形成されている。従って、前記ハウジング27に収容されて第2図のように可撓性の抜止め係止片27bに係合した状態で外力が加わっ



ても、当該抜止め係止片 27b を損傷させる恐れがなくハウジング 27 に対して高い抜止め保持力を維持することができる。

また第 3 図の電気接続子 5 は、弾性挟持片 6 の端部から突設させた面板を内側へ L 字状に湾曲させて抜止め係合部 7 が一体形成され、抜止め係合部 7 の接合面が湾曲状で厚肉に形成されている。従って、前記ハウジング 27 に収容されて第 4 図のように可撓性の抜止め係止片 27b に係合した状態で外力が加わっても、当該抜止め係止片 27b を損傷させる恐れがなくハウジング 27 に対して高い抜止め保持力を維持することができる。

尚、前記電気接続子 1、5 における符号 4、8 は底板を示し、その他の構成は従来の電気接続子 20 と同様構成のために図示と説明は省略する。

次に第 5 図と第 6 図は、第 8 図で示した電気接続子 30 を改良した実施例である。

第 5 図の電気接続子 9 は、舌状部 10 の下側で底板 11 の一部をくり抜いて形成された窓孔 12a と、当該窓孔 12a に隣接する一方縁部で底板

11の面板を内側へコ字状に湾曲させた湾曲片12bとが抜止め係合部12を形成している。

この電気接続子9が前記ハウジング37に収容された際には、可撓性の抜止め係止片37bが抜止め係合部12の窓孔12a内に嵌合されると共に、当該抜止め係止片37bの一方の端面が湾曲片12bに係止される。そして、湾曲片12bは接合面が湾曲状で厚肉に形成されているので、可撓性の抜止め係止片37bに係合した状態で外力が加わっても、当該抜止め係止片37bを損傷させる恐れがなくハウジング37に対して高い抜止め保持力を維持することができる。

また第6図の電気接続子14は、舌状部15の下側で底板16の一部をくり抜いて形成された窓孔17aと、当該窓孔17aに隣接する一方縁部で底板16の面板を内側へL字状に湾曲させた湾曲片17bとが抜止め係合部17を形成している。

この電気接続子14が前記ハウジング37に収容された際には、可撓性の抜止め係止片37bが抜止め係合部17の窓孔17a内に嵌合されると

共に、当該抜止め係止片 37b の一方の端面が湾曲片 17b に係止される。そして、湾曲片 17b は接合面が湾曲状で厚肉に形成されているので、可撓性の抜止め係止片 37b に係合した状態で外力が加わっても、当該抜止め係止片 37b を損傷させる恐れがなくハウジング 37 に対して高い抜止め保持力を維持することができる。

尚、電気接統子 9, 14 の符号 13, 18 は弾性挟持片を示し、その他の構成は従来の電気接統子 30 と同様構成のため図示と説明は省略する。

〔考案の効果〕

前記した実施例でも明らかなとおり、本考案の電気接統子はハウジングに収容されて当該ハウジング内の抜止め係止片と係合する抜止め係合部が改良され、この抜止め係合部は抜止め係止片との接合面が湾曲状で厚肉に形成されているので、可撓性の抜止め係止片に係合した状態で外力が加わった際に当該抜止め係止片を損傷させる恐れがなく、ハウジングに対して高い抜止め保持力を維持することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例による電気接続子の要部斜視図、第2図は同電気接続子とハウジングとの係合状態を示す部分縦断面図、第3図は他の実施例による電気接続子の要部斜視図、第4図は同電気接続子とハウジングとの係合状態を示す部分縦断面図、第5図は更に他の実施例による電気接続子の要部とハウジングとの係合状態を示す部分縦断面図、第6図は更に他の実施例による電気接続子の要部とハウジングとの係合状態を示す部分縦断面図、第7図は従来例による電気接続子の全体斜視図、第8図は他の従来例による電気接続子の全体斜視図、第9図は第7図の電気接続子をハウジングに収容させた使用状態を示す縦断面図、第10図は第8図の電気接続子をハウジングに収容させた使用状態を示す縦断面図である。

〔符号の説明〕

- 1, 5, 9, 14, 20, 30…電気接続子
2, 6, 13, 18, 24, 34…弾性挾持片
3, 7, 12, 17, 26, 36…抜止め係合部

— 10 —

4, 8, 11, 16, 21, 31…底板

10, 15, 35…舌状部

12a, 17a…窓孔

12b, 17b…湾曲片

22, 32…被覆挟持片

23, 33…芯線挟持片

25…突出し部

27, 37…雌形のハウジング

27a…係止突起

27b, 37b…抜止め係止片

28, 38…雄形のハウジング

29, 39…雄形の電気接続子

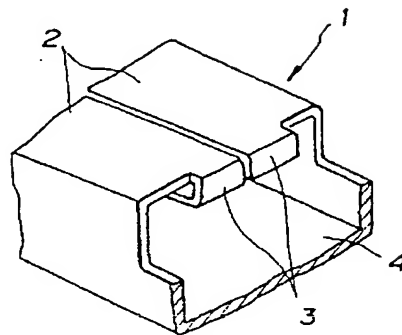
実用新案登録出願人 日本端子株式会社

代理人 弁理士 成島光雄

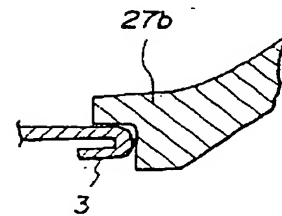


公開実用平成 3-55674

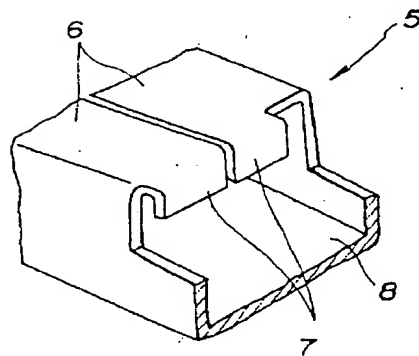
第 1 図



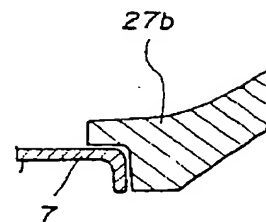
第 2 図



第 3 図



第 4 図



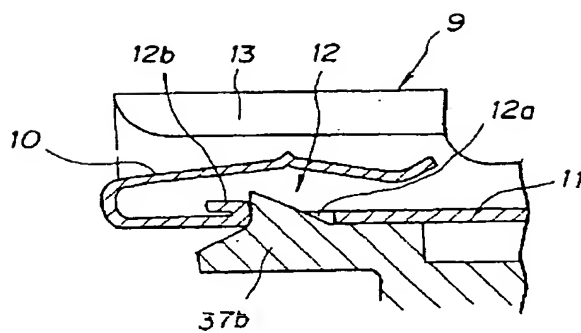
908

実開 3-55674

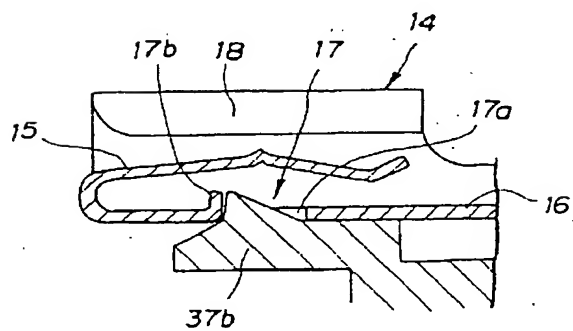
出願人 代理人 井理士 成

島 光 雄

第 5 図

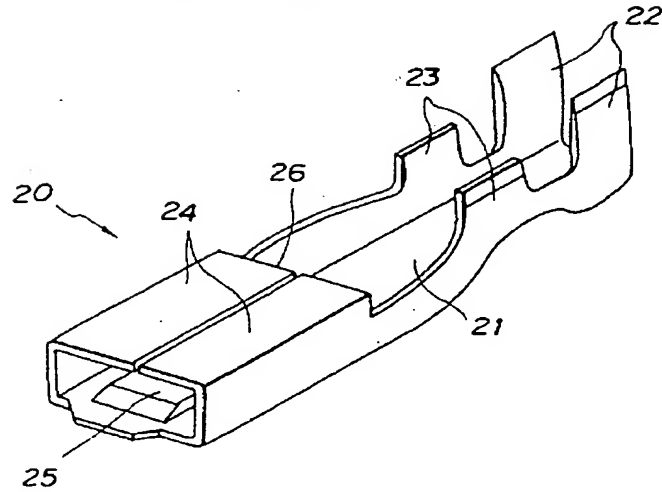


第 6 図

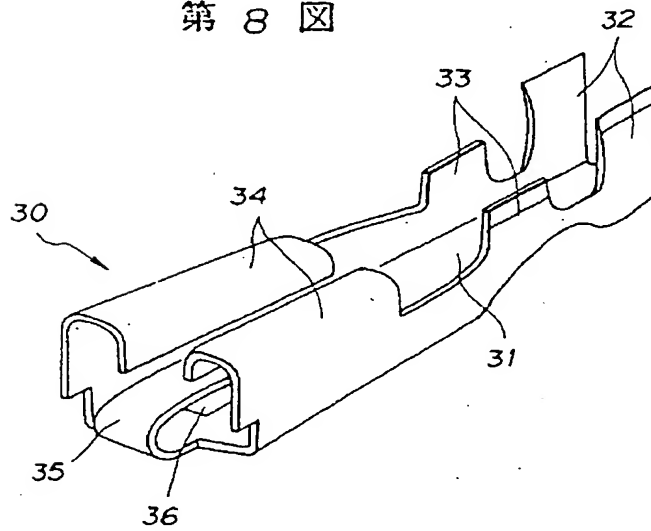


出願人 代理人 井理士 成 島 光 雄

第 7 図



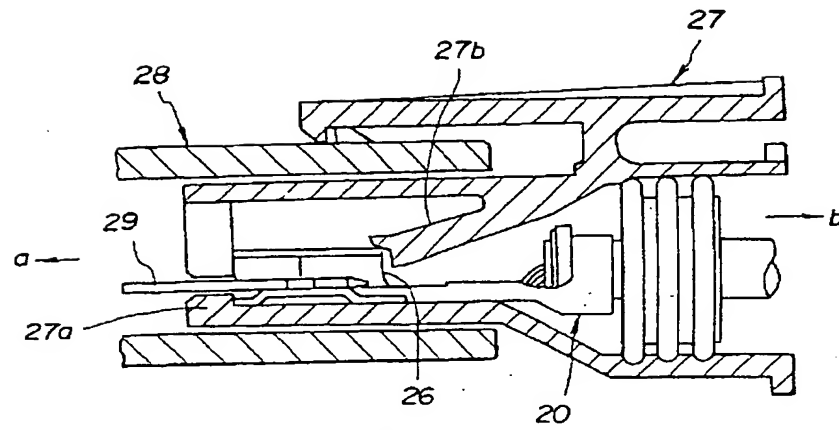
第 8 図



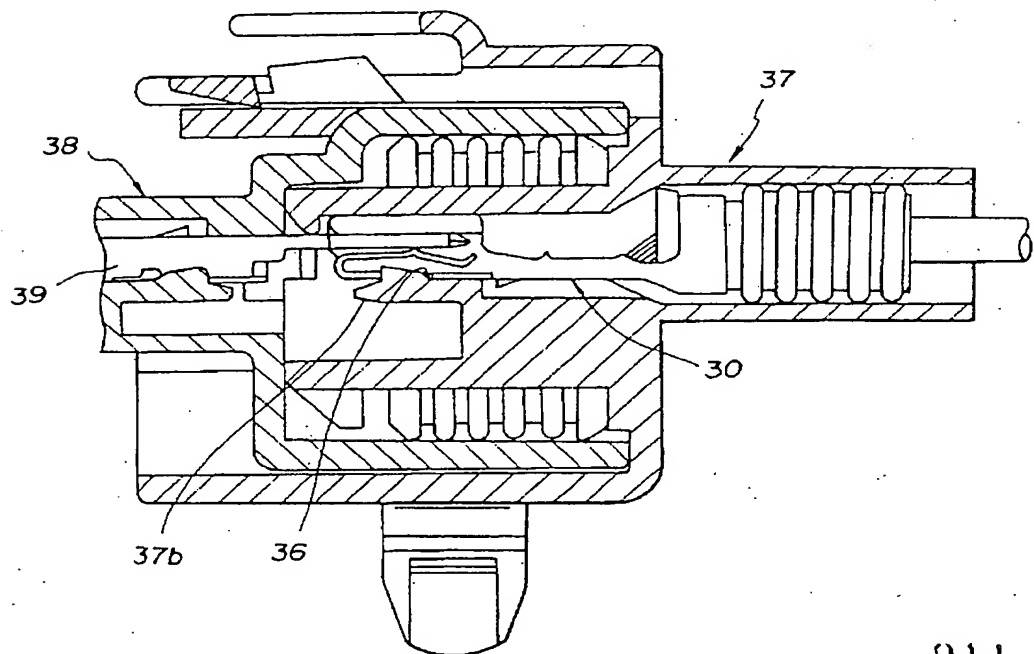
910

出願人 代理人 弁理士 成 島 光 雄

第 9 図



第 10 図



911

5433

557

出願人 代理人 弁理士 成 島 光 雄